

第3章

コース・ディスカッション・レポート

1 CD-1 あらゆる人々の活躍の推進

ファシリテーター：Richard G. Castor

PY：17名（JPY 7名、OPY 10名）

(1) コース・タイトル

「オール・イン」

CD-1は、「オール・イン（成人及び生涯教育イニシアチブ）：インクルーシブ、イノベティブ、インタラクティブな教育」に焦点を当て、持続可能な教育を通じて、食料の充足と不平等の解消に取り組む、包摂的な共生社会が必要だとする声に与するものである。「オール・イン」は、こうした恒久的な声と教育の、「誰一人取り残さない」という目標が体现されており、これに向かって我々も一丸となって自身を賭する（オール・イン）次第である。

(2) ディスカッションの目標とねらい

本CDを修了した暁には、以下について身につくものとする。

- 持続可能な教育を通して得られるインクルーシブ社会の活力について明らかにし、議論する。（知識）
- 創造的かつ革新的な生涯学習法の第一歩を踏む。（スキル）
- 個人及びコミュニティの持つ能力やスキル、才能をうまく差配して、インスピレーションや変革をもたらす解決策へとハイブリッドな学習エコシステムを効果的に先導する。（行動・経験）

(3) 事前課題

自分自身及び自国について伝える60秒の自己紹介動画を作成すること。

(4) 活動内容

A. オンライン交流

コース・ディスカッション・セッション1：「オール・インサイト」
ねらい

- CD-1のルールや目標の設定
- SDGsの紹介（目標1、2、4、10、17に注力）
- SDGs達成に向けて、個人の、そして果たし得る役割について考える。

活動

- 互いについて知る。
- バーチャルボードを用いて、期待することの確認や目標設定を行う。
- SDGsについての議論及び発表
- SDGsについての示唆、知識、背景、個人的経験を共有する発表を行う。
- 振り返り

成果

- 他のPYについて知り、それぞれの違いや共通点を認識することができた。
- SDGsの17の目標の概要や、目標1、2、4、10、17の一端を把握することで、これらの目標の実現に向けてPYが担える役割を認識することができた。
- PYの経験や学びの共有を通して、協力し合い、助け合うことの必要性が浮き彫りになった。

コース・ディスカッション・セッション2：「オール・インクルーシブ」
ねらい

- 持続可能な開発に不可欠なSDGs目標4について深掘りする。
- 特定の国の事例を発表する。
- 質の高い教育を達成するうえで鍵となる要素について議論する。

活動

- 前回で学んだことを振り返る。
- 二人一組になって共有を行うゲームにより、自分たちの共通点や相違点を明らかにする。
- 多様性や共生についての講義。
- SDGs目標4についての発表及び議論、また、動画を視聴しながらの事例研究を行う。
- インクルーシブな生涯教育が示唆する学びについて、その問題や課題を含めて、議論する。
- 各参加国の立場から見た、生涯教育の主な課題について発表する。
- 一連の質問に回答することで振り返りを行う。

成果

- PYがオンライン上で得られる経験をより良いものとするべく振り返りが活用された。
- 個々人の類似点と相違点への認識を深めることで、多様性を理解し、共生を実現するための第一歩とした。
- SDGs目標4について学び、それをもとに生涯学習に関する自国の問題点や課題について分析した。

コース・ディスカッション・セッション3：「オール・インスピレーション」
ねらい

- 創造的でインクルーシブな解決策を見つける。
- 参考となる事例をいくつか紹介する。
- 革新的な解決策に向けて主な障害となっているものや機会について議論する。

活動

- 前回で学んだことを振り返り、復習する。
- ゲームを通して、PYの才能やスキルについて知る。
- 情熱、才能、スキルに基づいた創造性が、いかに持続可能な開発を促進するかについての講義
- SDGsに向けたGAP（グローバル・アクション・プログラム）に関する参考事例の紹介と共有
- SDGsのための革新的な解決策に向けた障害や機会についての議論
- 振り返り・質疑応答

成果

- 変化と未来を促す可能性を多分に持つ、PYの才能やスキルが垣間見られた。
- 情熱、才能、スキルに基づいた小さくとも創造的な取組が、地球規模の問題を解決する力をもつことを知った。

B. 対面交流

コース・ディスカッション・セッション4:「オール・インタラクティブ」

ねらい

- 双方向型で簡単なゲームをすることによって、創造的な場づくりを行う。
- 創造的な業界についていくつか紹介する。
- 創造的な場づくりや共生的な営みにおける個々人の役割について議論する。

活動

- ゲーム:「ネーム・チェーン」、「ペイント・ミー・ア・ピクチャー」
- 創造的な場を作り上げるアイデアについて発表及び共有を行う。
- 創造的な空間や共生的な社会のような、教授と学習のエコシステムの価値について議論及び発表を行う。
- 振り返り

成果

- 創造的な空間の生涯学習への影響について認識を一にした。
- 教授と学習のエコシステムが、公式・非公式、社会的、など場を問わずに起こり得ること、また、多様な学びを通じた変化に対してPYが担う役割のあることを学んだ。

コース・ディスカッション・セッション5:「オール・イノベティブ」

ねらい

- 双方向型で簡単なゲームを通して、創造的な社会を作る第一歩とする。
- 生涯学習についての双方向的な事例をいくつか紹介する。
- 生涯学習の今後について議論する。

活動

- 復習を創造的に行う。

- ムーブメント・リレーというゲームを行う。
- SDGs目標 1, 2, 10について
- デザインとイノベーション:問題の取捨選択
- 振り返り

成果

- ムーブメント・リレーや自由討議を通じて、心身が整われた。
- SDGs目標4に向けた施策は1, 2, 10にも有効となることを知った。
- 各自どの目標に思い入れがあるかを把握することができた。

コース・ディスカッション・セッション6:「オール・インスティテューション」

ねらい

- 目標に向けてどのような連携があり得るか探る。
- 持続可能な解決策に向けた主要な政策について議論する。
- PY同士による連携の第一歩を踏む

活動

- 復習を創造的に行う。
- スピード・デーティングというゲームを行う。
- SDGsの目標17について
- 目標達成に向けた連携:肝となる政策や変革をもたらすアイデアに向けた案出し
- 振り返り

成果

- 連携の第一歩を踏み出し、また国を超えて行われる事後活動が決まった。
- 本事業終了後に、自らが取り組みたい問題や解決策について認識した。

課題別視察②

視察先: 認定特定非営利活動法人カタリバb-lab (文京区青少年プラザ)

活動

- b-lab内の視察ツアー
- b-labについての紹介
- ボランティアの方々との議論

課題別視察②から学んだこと

- b-labは、十代の若者が才能やスキルを育める、放課後の創造的な居場所であることが分かった。
- 他の国々にも、創造性や繋がり、生産性を促す類似の施設があることを知った。
- 今後は多様な、ソフト的、技術的、またIT関連のスキルが求められることを知った。

コース・ディスカッション・セッション7:「オール・イニシアチブ」 ねらい

- 「なぜ」から考えることの重要性について紹介する。
- どのようなSDGsプロジェクトであればうまくいき、どのような改善点があるかを議論する。
- 実施に向けた初期計画を発表する。

活動

- 創造的に復習を行う。
- 「なぜ」から始めることについて考えるゲームを行う。
- SDGsに向けたプロジェクトについての発表・共有を行う。
- 実施に向けた初期計画について議論・発表する。
- 振り返り

成果

- SDGsの目標が、持続可能な未来に向けたコラボレーションとイニシアチブの出発点であることで合意した。
- 当初計画が下書きされ、それについての宣誓が行われた。

(5) サマリー・フォーラム

多様性と共生は、質の高い教育を確かなものとする上で議論の核となり、また後者についてはSDGs目標1「貧困をなくそう」、目標2「飢餓をなくそう」、目標10「人や国の不平等をなくそう」に取り組むことができる、より良い世界に向けた推進力を体現するものである。また、生涯学習者は、創造的な空間を通じて、社会の様々な課題に取り組み、自分のスキルや才能を発揮することができ、双方向的なプラットフォームやメディアは、人々の繋がりを刺激し、その結果、コラボレーションが促される。最後に、PYは、事業後に自らのコミュニティや世界のためにまずは小規模なハイブリッド・プロジェクトを設計するために、PY同士でパートナーシップを築くことができた。こうして、教育を通じて、誰もが活躍できる社会を実現することが、未来への決意として共有されることとなった。

(6) 自己評価

ディスカッションによって理解が深まり、他の国の視点に触れることができたという肯定的なスタンスがPYによるフィードバックと振り返りで示された。PYは、短時間しかないことを意識しながらも、コース・ディスカ

ッションへの意気込みを見せる者がほとんどであった。以下、PYによるフィードバックをいくつか掲載する。

- ・ オンライン交流を続ける私たち一人ひとりを勇気づけるような、双方向型のセッションがとても良かった。(カナダ)
- ・ パワーポイントは本当に分かりやすく感謝している。また、ゲームを通じた活動も、お互いが話しやすくなるのに大いに役立った。(ペルー)
- ・ ファシリテーターのおかげで、初対面でも緊張しなかった。(日本)
- ・ ゲームを通じた活動はとても良かった。このCDは創造的で双方向型なところが気に入っている。(スウェーデン)

(7) ファシリテーター所感

ディスカッション・コースを通じて、持続可能な開発のための教育や生涯学習について学び、また一から考え直し、再び学び直すPYの姿勢は、示唆に満ちたディスカッション、プレゼンテーション、考察によって、各回をより充実したものにしてくれた。CD-1は、PYが自分自身や自国、SDGsについてより深く知る機会となり、事後活動への意気込みは、オンラインや対面での議論、課題別視察や地方プログラムを通して醸成されていった。時間の制約がある中でも、PYがいろいろな形の議論や会話を通して腹を割って話し合えることが肝要である。

課題別視察と地方プログラムは、よく考え抜かれ、計画・実施されたもので、CD-1の目的や目標に適い、深く意味付けられていることから非常に高く評価された。PYは何度もオンラインと対面での交流を行い、対面交流中においてもSWY「ハイブリッド」の精神がCD-1では育まれていた。示唆深くインパクトのある行動や解決策に向けてPYが積極的に協力し、取り組む姿を目の当たりにして、コース・ディスカッションでの成果に非常に満足し、感謝している。ファシリテーターとしての私の役割は、PYが自らの可能性を再発見し、PY自身やPYから刺激を受けるであろう人々に、持続可能な未来を構築するための知識、スキル、態度をもたらし、確かなものとすることに終始していた。

2 CD-2ジェンダー平等、女性活躍の推進

ファシリテーター：Angana Prasad

PY：18名 (JPY 8名、OPY 10名)

(1) コース・タイトル

「性、ジェンダー平等と社会」

(2) ディスカッションの目標とねらい

社会的な構成概念としてのジェンダーを確立し、ジェンダーという視点を通して全ての営み、思考や行動を見つめることで、我々の社会における女性・女子の扱いに正の影響を与える、責任ある日常の行動を促すものとする。

(3) 事前課題

- 異性の服を着て、友人との社交の場に一度参加すること。ドレスアップするのが難しければ、赤いネイルや吊り型のイヤリングをつけたり、異性しか身につけない象徴的なものを選んだり、家の中で同様のいで立ちをするなど、小さくとも目に見える行動をすること。
- 自国での以下のような場所の写真を撮ること。
 - ・ 男性はみられるが女性はいない
 - ・ 女性はみられるが男性はいない
 - ・ 両性が見られることが普通

(4) 活動内容

A. オンライン交流

コース・ディスカッション・セッション1

ねらい

- 互いの気どころを知りあう。
- ジェンダーや性についての基礎的な理解を深める。

活動

- タッチ・ブルー (導入的なアクティビティ)
- ストーリーテリング
- プレゼンテーション

成果

- グループ内においては、誰もが自分の意見を聞いてもらえると感じられるように、善意をもって、失礼のないように、また、理解できないことを笑ったりしないように等、基本ルールが定められた。
- ジェンダーと性の基本的な区分けを学んだ。

コース・ディスカッション・セッション2

ねらい

- 社会的条件付けについて理解する。
- ジェンダー上の役割について理解する。
- 性スペクトラムについて紹介する。

活動

- 動画視聴
- 案出し

成果

- ジェンダー上の役割と期待、そして各国の文化がこれらのパラメータにどのように影響するかについて、理解を深めた。
- ジェンダーは客観的事実ではなく、人為的な構造であることを改めて確立した、文化横断的な視点からジェンダーを見直し、理解した。
- 多様なセクシュアリティに対する基本的な認識を携え、それに対する教育の必要性を理解した。

コース・ディスカッション・セッション3

ねらい

- 男性性について理解する。
- なぜ男性について考えることが、女性の安全性を確立する上で重要なのか理解する。

活動

- プレゼンテーション
- グループでの議論
- 動画視聴
- ストーリーテリング

成果

- 家父長制の社会において、男らしさと女らしさを毒するものについて理解した。
- 家父長制の下では男性が権力を握る一方で社会的な圧力に悩まされているということから、いかに自ら責任ある行動をとれるように男子を教育する必要があるかを学んだ。
- 男子をより良く、敬意と思いやりを携えた男性へと育てるために、どのようなことができるか確認した。

B. 対面交流

コース・ディスカッション・セッション4

ねらい

- 生理の貧困について理解する。

活動

- 双方向型のプレゼンテーション

成果

- 生理やフロー管理、衛生的な行いについて理解を深めた。
- 生理の貧困を啓蒙する上で文化、社会、政治がどのよ

うな役割を果たしているかを、各国の実情と併せて
知ることができた。

コース・ディスカッション・セッション5

ねらい

- a. 大衆文化に見られる性差別を探す。

活動

- a. ダンス及びゲームを行う。
- b. グループでの議論を行う。

成果

- a. PYは、特に映画、歌、ジョークなどを通して、メディアがどのように性差別を助長しているかを理解した。
- b. 人気の童話に対して、より力強い女性キャラクターや男女間の敬意ある関係を盛り込んで、改作した。

コース・ディスカッション・セッション6

ねらい

- a. これまでの論点を復習する。
- b. アライシップについて理解する。

活動

- a. ドッジボール (ゲーム活動)
- b. ドラゴンの尻尾 (ゲーム活動)
- c. クマの洞窟 (ゲーム活動)
- d. 動画視聴

成果

- a. 家父長制の社会で男性が背負う責任の重さに共感することができた。
- b. ジェンダー平等とは、0 か100かといった極端なものではないことを、真に理解した。一方の性が強くなろうが、もう一方が失うものは何もなく、全ての性が共に育つことで、共栄することができる。
- c. 集団で行動することで、大きな目標を達成しやすくなることを学んだ。
- d. 女性の権利とはすなわち人権であり、男性も女性のエンパワーメントと安全に向けてともに奮闘することが重要であると学んだ。

課題別視察②

視察先：認定特定非営利活動法人フローレンス

活動

- a. 講義
- b. グループでの議論

課題別視察②から学んだこと

- a. 日本の男性が背負っている男らしさの重荷。
- b. 育児休暇を支援する体制は充実しているが、男性は残業を余儀なくされている。
- c. より良い労働時間及び性別に関係ない制度を実施するため、視察先が他の組織を啓発するために行った取組。

コース・ディスカッション・セッション7

ねらい

- a. 自己愛を育む。
- b. ジェンダーの視点から恋愛関係を分析する。
- c. アライシップについて理解を深める。

活動

- a. スピード・デーティング
- b. ポスター制作
- c. グループでの議論

成果

- a. 自身の能力を疑ってしまうような心の負荷について分かち合うことによって、互いを身近に感じ、心を軽くすることができた。
- b. 恋愛関係における危険な兆候に関する語彙や、良い慣行のリストについて共に学んだ。
- c. ジェンダー・スペクトラムに対してよりインクルーシブであるために我々が着手、継続、停止する必要がある物事について学んだ。

(5) サマリー・フォーラム

CDの内容の要約に始まり、その後は以下の3部構成となった。

- a. 全員が、CDで得た一番の学びを一文にして見せた動画
- b. OPYが、ジェンダーに関する諸点において、自国が日本から学ぶべき点、また日本が自国から学ぶべき点を共有した。
- c. 最後に、世の中がより男女平等となるため、私たち一人ひとりがすぐに始められる事柄について、発表した。

(6) 自己評価

- ・ デリケートな話題を扱うので、最初のうちはお互いに安全な空間を作ることが不可欠だったと思うが、CD-2のファシリテーターはそれを見事にさばいて見せた。もう一つ、PYがCD外でよく話していたのは、音楽、コメディ、映画などの大衆文化についてで、その多くがいかに女性を客体視しているかということであり、とても身につまされた。また、様々な課題や議論を通じて、自分のバイアスを認識する方法を学んだことも、非常に有益で目からうろこが落ちる思いをした。また、二人一組でお互いの前で新手の質問に回答する「スピード・デート」という活動の回もあったが、健全及び不健全な人間関係、そして自分たちがどう感じたかについて振り返ることとなった。最後に、フローレンスへの課題別視察や高知県での地方プログラムは、人がジェンダー平等の中でいかに働くことができるかの実例を目のあたりにする上で大変重要であった。(スウェーデン)
- ・ 無意識の偏見や、日常生活のどういう場面でどのよ

うにジェンダーを捉えているかについて考えてみようと思われ、持ち帰ることができたものとしては「やるべきこと」と「やり方」が挙げられる。各国の事例について、特にインドを中心として知ることができて興味深く、各種アクティビティは、その裏に大きな意味と学びをはらんでおり、楽しかった。生まれた時から社会が発しているジェンダーに関する何気ない（あるいはそれ以上の）メッセージが、私の今回の一番の学びであった。（オーストラリア）

(7) ファシリテーター所感

PYは共に過ごす上で素晴らしいグループであり、今に至るまで一緒に旅路を歩んできたことと総括できる。当初、PYは自国のジェンダーに関する状況や信念、慣行について共有することにあまり積極的でなかったのだが、やがて、誰もが批判や決めつけを受けることなく共有できる安全な場作りができた。あらゆる会話においてジェンダーの視点という意識を持たせる上で特に影響力があったのは、日本での対面交流時に交わされた会話であり、PYは交流の中で自らが持っている偏見について確認することができるようになった。女性を客体視するポピュラー音楽についての議論は最も紛糾し、CD外でもこの話

題が継続した。

このグループの難点を挙げるとすれば、男性のPYが1名しかいなかったため、話し合いの中で男性による視点が制限されてしまったことであろう。その非常に重要な穴を埋めてくれたのが課題別視察であり、日本男性にとっても家父長制社会がいかに難しいものなのかを知ることができた。それでもなお、コースにもっと男性がいればと思う。

高知県での地方プログラムはPYの絆を深めるのに効果的だったし、このコースで身につけようとしているジェンダーの視点に関する話に及ぶこととなった。

私がPYから集めたアンケートでは、CDがジェンダーに対する見方を鍛える上で役に立ったという肯定的な意見がほとんどだった。全般を通した改善点としては唯一、ごく短時間にあまりにも多くの活動が詰め込まれているように感じられ、息つく暇もなかったということが挙げられた。

このCDの目標は、PYがジェンダーの視点を身につけ、日常生活の中で小さな変化を起こすことであったが、グループとしてそれを達成するための道筋をつけることができたと自負している。

3 CD-3健康・長寿の達成

ファシリテーター：Teo Meng Hui Jocelyn

PY: 16名 (JPY 6名、OPY 10名)

(1) コース・タイトル

「ヘルシー365」

(2) ディスカッションの目的とねらい

- SDGs目標3（健康と福祉）、及び自らの国や世界における（身体的、精神的の両方の）健康や長寿を促進する施策について、今以上に詳しくなる。
- 特にコロナ禍であることに鑑み、誰もが自分や愛する者の健康について自分事として捉えることができると認識する。
- 自国において健康と長寿のための政策を提唱するための具体的なアクション・プランを作成する。

(3) 事前課題

- 自己紹介用の、また自分にとって健康・長寿は何を意味するかを伝えるための写真を撮影
- 自国における（身体的及び精神的）健康にまつわる主な問題、現在の取組やベスト・プラクティス、主なステークホルダー、国の行動計画についての振り返り

- SDGs及び国連「健康な高齢化の10年 (Decade of Healthy Ageing 2021-2030)」の行動計画についての予習

(4) 活動内容

A. オンライン交流

コース・ディスカッション・セッション1：健康と私

ねらい

- SDGs目標3及びその重要性の紹介
- 「健康」と「ウェルビーイング」の定義
- 「長寿」と「健康な高齢化」とはどのようなものかを検討

活動

- 写真や面白い事実を通したPYの自己紹介
- 自分たちにとって「健康」「ウェルビーイング」「長寿」「健康な高齢化」が意味するところは何か探る。

成果

- 同じ時間帯のグループに属するCDの仲間たちとより深く知り合うことができた。

- b. SDGs目標3について、またそれが自分たちの生活にどのように当てはまるのかについて理解を深めた。

コース・ディスカッション・セッション2：健康と私の国

ねらい

- a. 健康問題、長寿、高齢化に関して自国における最も喫緊の懸念事項について理解する。

活動

- a. オンライン掲示板アプリのPadletを用いて、健康と長寿に関するその国特有の懸念事項（例：年齢差別、雇用機会、病気の予防と治療、リハビリテーション、緩和ケア、終末期ケアなど）についての話し合い
b. SWOT分析（強み、弱み、機会、脅威）の練習
c. SWOT分析を用いた、国レベルでの健康と長寿の取組に関する格差とベスト・プラクティスについての議論

成果

- a. 各国の健康と長寿に関するベスト・プラクティスや課題についてより詳しくなった。

コース・ディスカッション・セッション3：国際レベルでの健康

ねらい

- a. 世界の健康を取り巻く状況について説明する。
b. コロナ禍が（身体的・精神的）健康及びウェルビーイングに及ぼす影響を理解する。
c. 長寿と健康な高齢化のためのベスト・プラクティスを学ぶ。

活動

- a. 他の時間帯のグループによるPadletをバーチャルに覗いてみる。
b. コロナ禍と一部の国での長期にわたるロックダウンが、精神衛生上の懸念を悪化させていることについて議論する。
c. 長寿と加齢に伴う健康問題を克服する方法について案を出す。
d. これまでの議論に基づき、健康や長寿に関する双方向型のクイズを行う。

成果

- a. 社会的孤立、高齢者の見放し、精神疾患、自殺のリスクなど、健康、高齢化、長寿に関連する国際的課題について理解を深めることができた。

B. 対面交流

コース・ディスカッション・セッション4：SWYにおける健康

ねらい

- a. オンライン交流で学んだ健康と長寿についての教訓を実行に移す。
b. SWYにおける健康の旗振り役としてのスキルを身につける。

活動

- a. オンライン交流の振り返り
b. 対面でのアイスブレイク
c. SWYにおいて、また地方プログラム中に、健康の旗振り役になる方法についての議論
d. SWYにおいて健康の旗振り役をする際のトーキング・ピースとして使用すべく、自分にとっての健康とは何かをテーマにした彫刻を、再利用の資材を使って作り上げる。

成果

- a. オンライン交流の時間帯が異なる二つのグループのPY同士で互いをより良く知ることができた。
b. 自分にとっての健康とは何かをテーマにしたトーキング・ピースとして彫刻を制作し、SWYにおいて健康と長寿の旗振り役となるべく、オンライン交流での学びをまとめた。

コース・ディスカッション・セッション5：健康についてのコラボレーションを実践する

ねらい

- a. 課題別視察②で訪問する予定の江東園の高齢者や子供たちとPYとの長期的な友好関係を築く。

活動

- a. 江東園の紹介動画視聴
b. 長寿の象徴である折り鶴の折り方をJPYがOPYに教える。
c. 江東園の高齢者に向けて手紙を書き、JPYが英語から日本語に訳す。

成果

- a. 高齢者と子供たちが交流する取組が持つ良さについて学んだ（高齢者が人生経験を話し、子供たちが活力や喜びをもたらす等）。
b. 根気や忍耐、チームワークの重要性を知った。

コース・ディスカッション・セッション6：日本における健康の旗振り役

ねらい

- a. 課題別視察②や地方プログラムで、健康の旗振り役となる。
b. SMARTゴールについて学ぶ。

活動

- a. 江東園の視察中に高齢者や子供たちに披露するパフォーマンスの準備
b. SMARTフレームワーク（具体的、測定可能、達成可能、目標に関連した、時間制約がある）の訓練

成果

- a. 地域のコミュニティに貢献する中でチームワークや情熱を発揮した。
b. SMARTに則った行動計画を立てられる力がついた。

課題別視察②

視察先：社会福祉法人江東園、江戸川区

活動

- a. 江東園への視察で、高齢者と子供たちの交流についてより良く知る。
- b. 高齢者と子供たちに向けて、ミュージカルや手紙を披露する。
- c. なごみハウスの視察
- d. 健康・長寿計画について江戸川区職員との懇談

課題別視察から学んだこと

- a. 資金面や地元住民の受入れ態勢に課題を抱えながらも、高齢者と子供たちの世代間交流の場として江東園の整備を計画した江戸川区の担当者の勇氣
- b. 安価な医療サービスへのアクセスを確保する長期的な支援のために、国民皆保険制度が重要であること。

コース・ディスカッション・セッション7：世界のための健康

ねらい

- a. 日本の長寿と健康の秘訣を探る。
- b. 各PYの国・地域で実行可能な、健康・長寿を促すためのアクション・プランを作成する。

活動

- a. 江東園への訪問についての振り返り
- b. 国のリーダーという立場から見て、最も喫緊の健康・長寿の問題を解決するためのSMARTゴールとアクション・プランを策定

成果

- a. 各PYは、自国における喫緊の健康問題を選び、それに対する具体的でSMARTに則ったアクション・プランを作成した

(5) サマリー・フォーラム

- a. CDのオンライン交流や対面交流、東京都江戸川区への課題別視察、函館市における地方プログラムを振り返り、得られた教訓、未来に向けたアクション・プランを発表した。
- b. 聴衆を巻き込んで、課題別視察と地方プログラムで高齢者と子供たちから教わったラジオ体操を行った。

(6) 自己評価

- a. PYからは、得られた学びとして以下のようなものが挙げられた。
 - ・ 互いの文化を深く理解し、自分たちは異なる一方で、その上に築き上げることができる多くの共通点を持っていること
 - ・ チームワークと異文化理解・尊重の重要性
 - ・ 江東園での課題別視察では、高齢者と子供たちが定期的に交流することで、高齢者は自らの経験を共有し、子供たちの面倒を見ることができ、子供たちは高齢者の生活に喜びと活力を与えることができるという大きな利点を学んだ。
 - ・ 人々が健康的な生活を送るための長期的なビジョンを持ち、医療・介護施設や必要なスタッフの育成などのインフラを整備すること、そしてビジョンに向かって一歩ずつ進み、困難を乗り越える勇氣が必要であること。
 - ・ 健康的な生活習慣（例：ラジオ体操）を共に維持するために、励まし合い、刺激し合える強いコミュニティの重要性
- b. PYは対面交流の機会を持てたことに感謝し、より深い異文化理解と友情を築く上で有効なことから、今後のSWYハイブリッドに当たっては対面交流の期間をより長くとることを提案した。

(7) ファシリテーター所感

オンライン交流と対面交流の良いところを組み合わせたSWYハイブリッドを企画いただいた内閣府に感謝申し上げる。PYは、仮想プラットフォーム「oVice」上にも及んだオンラインのCDに積極的に参加してくれた。時間帯ごとにグループが2つあったため、PYがもう一方の時間帯のPYとバーチャルに交流できるよう、オンラインのコラボレーション・ツールを使用することが役に立った。PYは、日本での対面交流で友情を深め、互いの文化を理解し、課題別視察や地方プログラムではベスト・プラクティスについて学べた。また、江東園では地域の方々との文通も始まり、この絆が事業終了後も続いていくことを願っている。PYがSWYハイブリッドで得た知識、スキル、経験をもとに、医療への資金やアクセス、医療インフラ、メンタルヘルス、認知症やがんなどの病気に至るまで、自国における最も喫緊の問題に取り組むためのアクション・プランを実行に移すことに期待を寄せている。

4 CD-4成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

ファシリテーター：Enzo Fabrizio Defilippi Angeldonis

PY：16名（JPY 6名、OPY 10名）

(1) コース・タイトル

「持続可能な開発への経済学」

(2) ディスカッションの目的とねらい

CD-4コースの目的は、2030年までにSDGs目標8（「持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、完全かつ生産的な雇用、全ての人々のためのディーセント・ワークの促進」）及び目標9（「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進」）を達成するために、政府、企業、市民が世界にできることは何かを理解することにあり、PYが以下を達成することが企画された。

- 経済成長、完全雇用、福祉増進を促進する経済の力について理解する。
- 経済成長を促進するために政府ができることと、その限界について理解する。
- 経済成長、社会の開発、平等を促進するために、市民、企業、市民社会が支持すべき公共政策を明らかにする。

(3) 事前課題

以下の事前課題がPYに課された。

- 目標8と9のターゲットと指標を中心に、SDGsについて知ること。
- 4分間の自己紹介を用意し、なるべく楽しいものになるように工夫すること。
- 自分が年老いて亡くなったところを想像し、自身の葬儀で親友に読んでもらいたい弔辞を用意すること。

(4) 活動内容

A. オンライン交流

コース・ディスカッション・セッション1：成長と開発

ねらい

- 経済成長と開発という概念、及び両者の関係を理解する。

活動

- 足並みをそろえるための活動
- 議題：
 - 豊かな国と開発先進国に違いはあるか、同じか。
 - 何が国を豊かにするのか。
 - 何が国に開発をもたらすのか。
- 振り返り：今日学んだことは何か。

成果

- この回の終わりには、PYは以下のことができるようになった。

になった。

- 成長と開発の関係を理解した。
- 開発につながる経済成長の状態について理解した。

コース・ディスカッション・セッション2：成長と平等

ねらい

- 経済成長と平等という概念と、両者の関係について理解する。

活動

- 足並みをそろえるための活動
- 議題：
 - 豊かでない国は開発をもたらすことができるのか。
 - 一人の人間、一市民として、貧しい国に開発をもたらすために、私たちにできることは何か。
 - 経済成長に平等は重要なのか、その理由は何か。
 - 開発に平等は重要なのか、その理由は何か。
- 振り返り：今日学んだことは何か。

成果

- この回の終わりには、PYは以下のことができるようになった。
 - 経済成長と平等の関係性について理解した。
 - 開発には平等が必要な理由を理解した。

コース・ディスカッション・セッション3：成長と持続可能性

ねらい

- 経済成長と持続可能性という概念と両者の関係を理解する。

活動

- 足並みをそろえるための活動
- 議題：
 - 持続可能性と経済成長
 - 世代を超えた責任
 - 環境政策の経済合理性
- 振り返り：今日学んだことは何か。

成果

- この回の終わりには、PYは以下のことができるようになった。
 - 経済成長と持続可能性の関係を理解した。
 - 持続可能性が開発に必要な理由を理解した。

B. 対面交流

コース・ディスカッション・セッション4：給与、生産性、雇用 ねらい

- a. 給与、生産性、雇用の関係を理解する。

活動

- a. 足並みをそろえるための活動
- b. 議題：
- ・ 学歴に関係なく収入が多い人がいる理由
 - ・ 社会的に重要な仕事が高給でない理由
 - ・ 最低賃金の経済合理性がもたらす効果
- c. 振り返り：今日学んだことは何か。

成果

- a. この回の終わりには、PYは以下のことができるようになった。
- ・ 給与、生産性、雇用・失業の関係を理解した。
 - ・ 最低賃金がもたらす効果と失業について理解した。

コース・ディスカッション・セッション5：若者と非正規雇用 ねらい

- a. 若者の失業問題、非正規雇用の原因と結果について理解する。

活動

- a. 足並みをそろえるための活動
- b. 議題：
- ・ 若者の雇用：なぜ問題となるのか。
 - ・ 若者の雇用を促進する法律が訴求すべきは何だと考えるか。
 - ・ 非正規な経済下で働く人は、収入も少なく、社会保障もないのに、なぜそこで働くのか。
- c. 振り返り：今日学んだことは何か。

成果

- a. この回の終わりには、PYは以下のことができるようになった。
- ・ 若者の失業問題とそれに立ち向かうために必要な経済政策を理解した。
 - ・ 労働の非正規化の問題とそれに立ち向かうために必要な政策を理解した。

コース・ディスカッション・セッション6：地域活性化、インフラ、予算の制約

ねらい

- a. ユニバーサル・アクセスに関する政策の経済合理性を理解する。
- b. 政府が合理的なプロジェクトを全て行うことができない理由を理解する。

活動

- a. 足並みをそろえるための活動
- b. 議題：
- ・ 地域活性化：何が問題なのか。

- ・ 国には他にも差し迫った課題がある中で、持続可能なインフラへの資金をどのように調達するか。
- c. 振り返り：今日学んだことは何か。

成果

- a. この回の終わりには、PYは以下のことができるようになった。
- ・ サービスの提供や地域活性化のための資金調達に関する問題について理解した。
 - ・ 公共インフラの建設、改良や改修に対する資金調達の問題を理解した。

課題別視察②

視察先：首都圏外郭放水路

活動

- a. 事業や施設の概要
- b. 洪水を予防するシステムの運営に関する説明
- c. 施設見学

課題別視察②で学んだこと

自然災害の影響を最小限に抑えるために巨額の資金を投じることの合理性や、今回視察したような大規模なインフラを構築するために必要な工学的・技術的な課題について学んだ。

コース・ディスカッション・セッション7：国際協力

ねらい

- a. 後発開発途上国の経済開発のためには、国際協力に何ができ、何ができないかを理解する。

活動

- a. 足並みをそろえるための活動
- b. 議題：
- ・ 国際協力：なぜ、どのように
 - ・ 国際協力は何を成し得るのか。
 - ・ なぜ国際協力は失敗し得るのか。
- c. 振り返り：今日学んだことは何か。

成果

- a. この回の終わりには、PYは国際協力がどのようになされ、いかなる限界や制約があるかを理解できるようになった。

(5) サマリー・フォーラム

SDGs目標8と9の関連トピックに関し学んだ事柄の重要性を中心に、このCDが拠って立つものの説明からプレゼンテーションは幕を開け、視察先の写真を見せながら経済開発のための政策との関係についても説明がなされた。最後に、学んだことを自分たちのコミュニティでどのように活かしていくかを説明して締めくくられた。

(6) 自己評価

- ・ 他の国からの捉え方を聞くことができ、とても有意

義だった。経済的な意思決定において、過程がいかに重要であるかということをさらに理解することができた。

- ・ 国によって事情は違うものの、同様もしくは類似の問題を抱えていることがあるのに気づいた。そのため、共通の問題に対する解決や改善のアイデアを共有する良い機会となった。特筆すべきことに、これは開発途上国であってもである。
- ・ 経済も他のどの分野とも同じように、はっきり白黒つけられないところがあり、どんな選択をしてもそれによって苦しむ人が出るため、意思決定者は自分が何に対峙するかを選択しなければならないということを知ることができてよかった。
- ・ このCDは、普段考えないようなテーマについて考えさせられたので、とても良かった。また、他の人の視点もとても興味深かった。
- ・ 経済成長、開発、持続可能性の関係は、全てが互いにつながっているため、非常に重要だ。経済成長は多くの変化をもたらし、所得に反映され、人々が享受できる設備や機会をさらに向上させることで、全体的な開発がもたらされる。

(7) ファシリテーター所感

今年度のSWYにおけるファシリテーターに選ばれたことは、既参加青年として実にうれしかった。本事業は、

私が成長する上で非常に重要なものであったし、その恩返しをしたいと常々思っていた。

経済成長、開発、持続可能性といったテーマを、経済学のバックグラウンドがない者と議論するのはいつも大変なことであり、今回も例外ではなかった。しかし、PYの熱意と関心によって非常に充実した議論が展開され、目的が達成されたことは間違いない。

PYに対しては、各トピックに関する基本情報を与え、グループに分け、思考と議論を促すような挑発的な質問をする手法をとった。

冒頭3回のディスカッションはオンラインで行われ、経済成長、開発、持続可能性の関係という、SDGsの根拠を理解する上で欠かすことのできない基本的な問題を扱った。残念ながら、仮想空間はディスカッションを促進するものではなく、ネイティブ・スピーカーと英語で議論することを恥ずかしがるPYも見られた。

後半は、日本で対面で行われたため、議論が順調に進み、賃金、生産性、雇用の関係、非正規雇用や若年層の失業問題、国際協力の限界など、より具体的なテーマが取り上げられた。特に肝となったのは、インフラの重要性（これは課題別視察で非常によく理解できた）、そして有益ではあるが高価なインフラプロジェクトに投資する上で政府が直面する限界についての議論だった。

私たち全員にとって、素晴らしい冒険となった。いつも胸にSWYを抱き続けてほしい。

5 CD-5持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

ファシリテーター: Felipe Salgado de Souza

PY: 16名 (JPY 6名、OPY 10名)

(1) コース・タイトル

「都市とコミュニティの未来への展望」

(2) ディスカッションの目的とねらい

CD-5の三本柱は、「認識」、「理解」、「行動」である。

- 特にCD-5で扱うものを中心に、持続可能な開発に関する世界的な課題について、そしてそれに取り組むことの重要性について、認識する。
- SDGsについて、またその仕組み、目的、変革を実現する手段、そして自らの若手リーダーとしての立ち位置について十分に理解する。
- 私たちの未来に立ちはだかる持続可能性の課題に取り組む気概を持ち、行動を起こす。

(3) 事前課題

議論の土台として、PYには以下のトピックについて詳

しく説明することが求められた。

- ・ SDGsの概念、特に目標6と11について
- ・ 自国における青年が主導で運営されている組織
- ・ 自身のボランティア活動の経験
- ・ 開発に関する課題の解決に向けたパートナーシップの活用方法。

(4) 活動内容

A. オンライン交流

コース・ディスカッション・セッション1

ねらい

- CDの運営方法と計画についての説明
- PYの自己紹介
- SDGsに対するPYの認識や理解を醸成する。
- チームワークを築き、様々な国の実情を知る。

活動

- 導入講義：SDGs～私たちの身の回りを持続可能なものに～
- 自己紹介及びアイスブレイク：同じものと違うもの
- ガイドラインと原則：PYから見て、このCDの土台となるガイドラインと原則はどのようなものが良いか
- グループでの振り返り：SWYに参加した理由
- 講義：SDGs、持続可能性、強靱性、質の高いインフラ
- グループでの活動：事前課題についての議論と発表

成果

- SDGsと関連する概念に対するPYの理解について足並みを揃えた。
- PY間での連帯感とチームビルディングに向けて動き出した。
- 異なる国の実情や考え方を理解した。

コース・ディスカッション・セッション2

ねらい

- 目標6「水と衛生」についての理解を深める。
- 水と他の資源との関係を考える。
- 異文化理解についてレベルアップする。

活動

- 講義：水の惑星、地球
- グループでの活動：水と衛生が、SDGsの他の目標とどう関係しているか
- 講義：社会における異なる分野と、共通して担う責任
- グループでの議論：自分たちの国における水にまつわる実情

成果

- 人類生存のための最も基本的で重要な資源である「水」、それにまつわる問題、他の開発分野に与える影響について概要を理解した。
- 目に見える汚染、目に見えない汚染、水ストレスという概念を理解した。
- 異文化理解を促し、異なる国の実情から学んだ。

コース・ディスカッション・セッション3

ねらい

- 目標11「持続可能な都市と地域社会」について理解を深める。
- 都市、人間居住の意味、持続可能な都市を作るための現実的な方法について考える。
- 対面交流への準備

活動

- 講義：未来に望んでいる都市とは
- グループでの活動：我々の生き方を再考しよう
- 異文化活動：開発にまつわる諸問題や異なる見方
- 対面交流に向けての準備：特別講師 Alvaro Didio (SWY29)、João Grilo (SWY32)

- 振り返り：対面交流に向けての期待

成果

- 人間居住の概念、その構成要素、都市化の問題などについて総合的に理解した。
- 空間分布についての考察、そして現在の都市化モデルについて考察できた。
- PY間の絆と異文化理解を深めた。
- 対面交流への準備及び期待値の整理

B. 対面交流

コース・ディスカッション・セッション4

ねらい

- PYを歓迎し、SWY的な精神を高め、チームビルディングを進める。
- SDGsに向けた行動の重要性と青年の役割について考える。
- SWYでのプロジェクト「都市モデル作り」を始める。

活動

- 講義：SWYへようこそ～動くなら今だ～
- アイスブレイク及び自己紹介
- チームビルディング活動：壁画を制作してみよう
- 講義：SDGsにおける青年の役割
- SWYプロジェクト(第一部)：導入、ガイドライン、グループ活動

成果

- 互いに知り合い、グループの結束力を高めることができた。
- 個人とグループの目標が描かれた壁画を制作できた。
- 持続可能な開発に対する青年の役割を理解できた。
- SWYプロジェクトのグループ・リーダーを選出し、作業計画を定めた。

コース・ディスカッション・セッション5

ねらい

- JPYが企画した課題別視察①の振り返り
- 青年主導の取組で特筆すべきもの
- 事例から学び、同様なことを実現する計画を立てる。
- 都市モデルのプロジェクトを進める

活動

- 講義：青年の力～世界中の取組
- グループでの議論：いかに青年が変化を生み出せるか
- 課題別視察①の振り返りと、そこで見られた都市の力学
- SWYプロジェクト(第二部)：優先事項とチーム作りについての定義

成果

- リーダーシップについての幅広い理解と日々の実践方法について知ることができた。
- 自身のコミュニティでプロジェクトを運営する名高

い青年リーダーについて学び、またPYからは取組のアイデアが考え出された。

- c. 批判的思考を養い、サービス、インフラ、環境、人、都市のその他構成要素といった観点から、都市散策の分析をすることができた。
- d. 都市モデル・プロジェクトの続きとして、優先順位の策定とチーム作りを行った。

コース・ディスカッション・セッション6

ねらい

- a. 目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」について理解を深める。
- b. BAU (旧態依然) という概念と、持続可能な開発をどのように促進するかについて考える。
- c. 都市モデル・プロジェクトにパートナーシップの考え方を応用する。

活動

- a. 講義：パートナーシップの重要性～みんなでやらなければいけない
- b. 集団力学：パートナーシップを学ぶ「タワー・ビルディング」～社会への貢献と表面的な行いの比較
- c. グループ活動：社会の多様な分野を巻き込んだプロジェクトの案出し
- d. SWYプロジェクト (第三部)：持続可能な都市の共通ビジョンの策定

成果

- a. パートナーシップの力学と、持続可能な開発に向けて異なる分野やグループがどのように独自の利益、制限、役割を持つかについて概要を理解した。
- b. 持続可能な開発について現在のペースを振り返り、目標達成に向けて加速するにはどのようなパートナーシップが必要なのかを考えた。
- c. 社会の各分野を巻き込んだプロジェクトとそれぞれが抱えるトレードオフについて、自分たちで考えアイデアを出すことができた。
- d. 都市モデル・プロジェクトの続き：優先順位の高い領域の深堀

課題別視察②

視察先：認定特定非営利活動法人みらいの森

活動

- a. 組織の視察先の紹介：歴史、目的、課題、社会的影響
- b. みらいの森を卒業した青年によるプレゼンテーション及び交流・対談
- c. グループ活動：NPOに関するアイデア出し
- d. みらいの森の青年インターンの発表及び交流・対談
- e. 手芸：みらいの森の支援者に対するギフト作り
- f. まとめ、視察先への記念品贈答

課題別視察②から学んだこと

- a. 現場で実際の取組から学び、NPOへの理解を深めた。
- b. 卒業生とインターンのストーリーに刺激を受け、また小さな行動が大きな変化につながることを実感した。
- c. ボランティア活動の重要性、都市において自然や屋外空間がいかに重要であるかを理解した。

コース・ディスカッション・セッション7

ねらい

- a. 事業後にも行動を起こすにはどうすれば良いか考える：事後活動
- b. 課題別視察②の振り返り
- c. 自らの目標と期待を再確認し、進捗を知る
- d. 都市モデル・プロジェクトについて発表する

活動

- a. 講義：気付いて、行動しよう
- b. 課題別視察②の総括：何を学び、それをどう生かすか
- c. PYの壁画を更新：進歩と達成したこと
- d. 事後活動：今後、我々は何ができるか
- e. SWYプロジェクトの発表

成果

- a. 持続可能な都市における人的要因、より詳しくは、都市サービスと市民が心でほしいと思っている事柄とのバランスについて考察した。
- b. SWYで見られた自らの進歩や成果を確認することができた。
- c. 事後活動の異なる実践方法について理解した。
- d. いくつかの開発分野を含む、PYが共通に描く未来都市ビジョンの最終版を発表した。

(5) サマリー・フォーラム

CD-5の成果を、6名のPYによって発表し、以下のトピックが取り上げられた。

- ・ チームメンバーとそれぞれの都市の紹介
- ・ オンライン交流と対面交流
- ・ 浅草及びみらいの森への課題別視察
- ・ 持続可能で安全、かつ強靱な都市という共通のビジョンとしての、SWYプロジェクトの成果
- ・ 神奈川県での地方プログラム：地元青年たちとの活動や交流
- ・ 結論

PYは、CD-5の目標や目的を達成し、自分たちの経験をまとめ、社会的・物理的インフラと持続可能な未来に向けた行動の必要性について、強いメッセージを伝えることができた。

(6) 自己評価

PYは、CD-5の質を振り返って、5段階評価（1が「悪

い」、5が「良い」)で評価し、匿名のアンケートに回答した。その結果は以下のとおりである。

項目	平均
満足度	4.88
トピックへの関心	4.65
認識度	4.65
SDGsの理解度	4.82
どれだけ触発されたか	4.70
他のPYとの関わり具合	4.76
議論内容	4.70
参加度合い	4.70
時間配分	4.52
ファシリテーター	4.94
みらいの森への課題別視察②	4.76

他にも、PYからは、自らが築いた繋がりや優れたチームワーク、そしてやる気を起こさせ、参加させ、有意義で分かりやすい議論を作り出すファシリテーターの能力、議論したテーマに対する新しい視点、このCDを成功に導く一端を担った課題別視察や地方プログラムなどについて述べられた。

(7) ファシリテーター所感

全ての活動に積極的に参加し、SWYでの経験を最大限に生かそうとする、意欲的で最善を尽くす素晴らしいメンバーがCD-5には揃っていた。私たちはこのCDで目標を達成し、さらに前進し、社会に積極的な貢献をもたらす後押しを得ることができた。このような特別で多様な青年リーダーたちと時を共にできたことに感謝している。

6 CD-6省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会

ファシリテーター：Ranaporn Tantiwechuttikul

PY：15名 (JPY 5名、OPY 10名)

(1) コース・タイトル

「継続可能な未来に向けてエエネルギー転換、気候変動対策、資源効率化の視点を通して」

(2) ディスカッションの目的とねらい

CD-6が掲げる一番の目標は、SDGsの理解やSDGsの目標間の相互連携について、PYの視野を広げることにある。なぜなら、世界の課題は、もはや単一の学問分野に属するものではないからだ。幅広いと同時に統合された考え方をすることによってSDGs目標7、12、13のディスカッション・テーマ(省・再生可能エネルギー、循環型社会、減災・気候変動対策)について深く掘り下げ、PYが各自の文脈に即した示唆を見出すことができるのである。

さらに、PYが多様な背景を持つことで、ディスカッションの場では個性と国柄が尊重される。これを受け、特に他のPYの専門知識による学習機会を最大化し、建設的な議論を促進し、コミュニケーション能力を強化するために、積極的かつ協力的な役割を果たすことがPYには期待される。また、PYは、選択したトピックに関する課題の解決策を一緒に考え、青年のリーダーシップがいかにか社会に対してポジティブな変化をもたらすか実践することとなる。

(3) 事前課題

- 国際的に合意された喫緊に行動が求められる17の目標からなるSDGsを読み、ディスカッション・テーマに関する目標はその詳細について学び、SDGsの目標

7、12、13ごとに、自国において大きく問題となっている社会課題を選ぶこと(合計3つ)。そして、それらの問題がどのように発生するのか、誰が、どのようなことをしたのか、何となされるべきと考えるか、他にPYができることは何か、について簡単にまとめること(英文100~300単語)。

- PYは、24時間の時間枠で、日常生活におけるエネルギー関連の問題について詳しく調べ、エネルギーの形態、主なエネルギー資源、代替エネルギーの余地、エネルギーの貯蔵システムについて図画にまとめること。
- 気候変動対策と減災に関して、自身の理解度に即して写真(自分で撮ったもの、どこのものでも良い)を1枚共有し、そこには3つのキーワードを書き込むこと。

(4) 活動内容

A. オンライン交流

コース・ディスカッション・セッション1

ねらい

- ディスカッション・セッションにおける個人目標を設定する。
- 論点やディスカッションの方法を知る。
- SDGsへの理解を深める。

活動

- アイスブレイク：2人1組になって、相手のことを知り、全体に紹介する。
- 自分の「なぜ」を知る：ディスカッション・セッションにおける目標設定及び自身の改善余地

- c. 各回の進め方：基本的な合意事項とZoomの効果的な使い方
- d. SDGs、ターゲット、文脈の中でも何に焦点を当てるかを決定する。
- e. SDGsの展開と実践に関するファシリテーターによるプレゼンテーション

成果

- a. 核となる学習コンセプト及びコース・ディスカッションの概要について理解した。
- b. SDGsの発展性と実用性について詳しく学んだ。SDGsウェディングケーキ・モデルでは、経済、社会、生物圏におけるCD-6に関する相互作用が描かれる。

コース・ディスカッション・セッション2

ねらい

- a. SDGs目標7、12、13について詳しく知る。
- b. 異なるレベルの異なる視点を得る。

活動

- a. 事前課題1に基づき、個々人で課題の共有を行う。
- b. SDGs目標7、12、13の概要、ターゲット、指標について、11か国におけるSDGs進捗状況のダッシュボードを交えて議論する。
- c. 国際、国家、地域と文脈の異なるレベルで実施される対策について案出しするため小グループに分かれてディスカッションを行う。Miroのワークスペースを使いながら、Zoomのブレイクアウトルームを利用してグループディスカッションを行う。

成果

- a. 各国で起きている重要な問題について認識することができた。
- b. 小グループに分かれての議論では、PYが共通のSDGsのターゲットに取り組むことができ、またタイムキーパーや討論者という役割を取り入れた。

コース・ディスカッション・セッション3

ねらい

- a. 他国のエネルギー事情と課題を知る。
- b. 異なるエネルギーの形態やサービスを区別する。

活動

- a. ゲーム活動：エネルギー・プロフィールをマッピングすることで、主要エネルギー源を明確にし、各国の独自性を浮き彫りにする。
- b. 事前課題2に基づく個々人の共有とディスカッション

成果

- a. エネルギーと再生可能エネルギーについて世界の概観を知った。
- b. 国の状況に左右されるエネルギーのトリレンマ（エネルギーの安全保障、エネルギーの公平性、環境の持続可能性）について認識し、エネルギー政策の意義を知った。

B. 対面交流

コース・ディスカッション・セッション4

ねらい

- a. エネルギーの形態と場面ごとの使用方法について学ぶ。
- b. 他国の気候変動対策や減災について認識する

活動

- a. アイスブレイク：ギャラリー・エネルギー・ツアー（事前課題2の続き）、オンライン交流（セッション1～3）の振り返り
- b. 建物、調理、電気、輸送の4つの環境下におけるエネルギー使用量について小グループに分かれて話し合う。
- c. 事前課題3を個々人で共有する。

成果

- a. グループメンバーの全員と知り合い、世界のエネルギー事情に関してより広い視野を持つことができ、日常生活におけるエネルギーの形態や使い方について峻別することができるようになった。
- b. 気候変動に関する問題や適応策について共有し、より深く学ぶことができた。

課題別視察①

視察先：渋谷・原宿

活動

- a. 日本のポップカルチャーの中心地である渋谷・原宿エリアを散策する。
- b. 明治神宮にて日本の伝統文化を体感する。

課題別視察①から学んだこと

- a. 成田から東京までの道中にあるゴミ焼却発電所について
- b. 江戸時代に即した東京の街作り、皇居と緑地、東京の地下鉄網について
- c. 持続可能な漁業と食品のトレーサビリティについて

コース・ディスカッション・セッション5

ねらい

- a. リ・サークル（資源効率と循環型経済）の概念を理解する。
- b. グローバルな資材需要の拡大による環境への影響について認識する。

活動

- a. ゲーム活動：リサイクル包装紙1枚をうまく使って5名のPYを部屋の向こう側まで移動させることを通じて、資源効率について学ぶ。
- b. グループ・ワークショップ：各グループが一つのアイテムを選び、製品のライフサイクル分析を行う。（例：製品がどのように作られ、最終的にどのようなかを簡単なフローチャートにする。）

成果

- a. 同じ資源を使いながらも、各グループからは異なる

戦略が立案された。また、PYのスピード感、紙の破き具合、紙の余りなど、にも勝ち負けが左右された。

- b. 製品のライフサイクルに関する全貌と廃棄物の問題について認識するに至った。可能であれば、より少ない材料を用いるように努めることが大事な原則となる。

コース・ディスカッション・セッション6

ねらい

- a. ステークホルダーとの関係におけるコンフリクト・マネジメントについて理解する。
- b. CD-6のキャンペーンについて、アイデア出しを行う。

活動

- a. 交渉ゲームを通じて、様々なステークホルダーの持つ優先順位について体感する。
- b. 社会における青年の役割と変革を引き起こす方法について話し合う。
- c. システム・プロブレム・ステートメントを用いて、アイデアを実行に移す。

成果

- a. コンフリクト・マネジメント、交渉スタイルの類型化、プリンシプル・ネゴシエーションについて体験した。
- b. CD-6のキャンペーンについて一人ひとりがアイデアを出し、グループ投票で上位3つのアイデアが採用された。

課題別視察②

視察先：三井不動産株式会社

活動

- a. 柏の葉スマートシティの開発について学ぶ
- b. あ・し・た(まちの健康研究所)及びスマートセンターの見学ツアー

課題別視察②から学んだこと

- a. 産官学連携による都市開発プロジェクトについて
- b. 2050年のゼロエミッション目標に向けて、再生可能エネルギー技術を統合・促進する挑戦的な課題について

コース・ディスカッション・セッション7

ねらい

- a. プロジェクトの立ち上げと実行を経験する。
- b. 効果的なコミュニケーションのためのキー・メッセージを作る。

活動

- a. ゲーム：ペーパークリップがどのようなことに使えるか、自由に発想してみる。
- b. 上位3つのアイデアをもとにCD-6キャンペーンを作る。

成果

- a. アイデアの選定、プロジェクトの開始、実施などを経験した。
- b. 物理的な場所の制限や移動のため、PYは様々なオン

ライン・チャンネルで活動することを決めた

(5) サマリー・フォーラム

手を挙げた3名のPYが発表を担当し、他のメンバーはスライドや原稿の準備を手伝った。発表は概して、関連するSDGs、CD-6の基本構成(オンライン交流、対面交流、課題別視察)、各活動から得た教訓、最後の振り返り(特に青森県の高校生との活動)、という流れで、スライドではグループの活動を、ナレーションでは心の動きを表現していた。PYは、グローバルな解決策を考えるだけでなく、自分のスキルや専門性に関しても、コラボレーションを求め、地場で行動することができるようにと考えている。

(6) 自己評価

「何を学んだか」

- ・ 気候変動、エネルギー、循環型エネルギーにおける持続可能性への技術的アプローチ
- ・ 気候変動、エネルギー利用、資源管理に向けた様々な見方
- ・ 交渉力。なぜならば、何かを変えんとすれば異なる考えの持ち主と対面することになるからである。(交渉の事例からの教訓：決定はスタンスではなくメリットに基づいて行うこと、創意工夫を以て相互利益を生み出すこと)

「CD-6は何が特に良かったか」

- ・ 集まった人と友情。温かい雰囲気。学び、分かち合いが推奨された空間。
- ・ 持続可能性を学ぶ姿勢。好奇心と寛容の精神。
- ・ ゲームなどのアクティビティ
- ・ 課題別視察と青森県での経験

「CD-6の改善の余地は何か」

- ・ 何らかの方法で他のCDと交流する。
- ・ オンライン交流では共有のための時間がもっとほしいかった。

(7) ファシリテーター所感

グループ・ダイナミクスと周囲への優しさから、実りある話し合いが実現した。オンライン交流では、PYがSDGsの知識に親しむことができ、対面交流では、真にチームビルディングとつながりが培われた。主たる内容を考慮しながらPYの学習方法に合わせて、ゲームやその他アクティビティも用いられた。リーダーシップという点では、全員が成長し、何らかの役割を自然に担うことができた。

このような才能溢れるグループをファシリテートできたことを大変うれしく思う。

7 CD-7生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

ファシリテーター：Nguon Pheakkdey

PY：17名（JPY 7名、OPY 10名）

(1) コース・タイトル

「青年による環境問題への取組」

(2) ディスカッションの目的とねらい

CD-7の目的は、PYが、参考になる文献や青年主導の取組を基に、石川ダイヤグラム（特性要因図）及びイテレーション計画を作成し、自らの選んだ環境問題に取り組むことであり、3つの重要なねらいがあった。

第一に、SDG目標14及び15の下での複雑な環境課題の状況や議論について、異なる理論的枠組みや理解をPYにもたらしした。

第二に、PYは、自分が関心のある環境政策や青年主導の取組について検証可能な分析手法（問いの立て方、分解、変化・空間分析など）と実践的なツール（石川ダイヤグラム、イテレーション計画など）を学び、自らが選択した環境課題の解決に向けた独自の行動計画を立案できるようになった。

第三に、仲間と共に様々な活動を行う双方向型のセッションを通じて、対人スキルやコミュニケーション能力を高めることができた。

(3) 事前課題

課題図書のほか、2種類の個人課題があった。

第一は、2030年までに取り組みたい自国の環境課題を選ぶことだった。

第二は、各PYは、青年主導の環境に対する取組の中で自分が感銘を受けたものを一つ選ぶことだった。この課題では、取組の契機、主な仕事内容、キーパーソン、教訓、再現可能性、に焦点を当てることが求められた。

(4) 活動内容

A. オンライン交流

コース・ディスカッション・セッション1

ねらい

- グループのメンバー、目的、期待される成果について紹介し、基本ルールを策定する。
- 各PYが選択した環境課題の主要な要因、影響、緩和策について話し合う。
- 選択した環境問題に2030年までに取り組むという抱負について表現する。

活動

- 順繰りにPYの自己紹介が行われた後、CDの目的と期待される成果が紹介された。

- PYは協力し合って、CDの基本ルールを策定した。

- 各PYは、事前課題の結果を順繰りに発表した。

成果

- グループ内の基本ルールができた。
- PYは、2030年までに取り組みたい環境問題について述べることができた。

コース・ディスカッション・セッション2

ねらい

- 環境問題や関連する社会経済的影響についての現状や議論に対して幅広い理解を深める。
- 環境問題に対する既存の政策と、青年参加の担う役割を理解する。

活動

- SDGs目標14と15に関するグローバルな環境問題について事前課題で挙げられた図書をもとに、活発な議論を行った。
- 国際連合「YOUTH2030（ユース2030）」戦略で示された国際的な政策や青年の役割について、グループ・ディスカッションを行った。

成果

- 自身の関心ある環境問題やそれに関連する社会経済的影響について、現況と論点を理解した。
- ユース2030戦略の目的と主眼を理解し、この戦略の主な学びについて話し合いました。

コース・ディスカッション・セッション3

ねらい

- 環境資源の管理に関する主要な概念や論点について紹介する。
- 集団内での力学、制度・ルール、意思決定における個人の役割について理解する。

活動

- エリノア・オストロムによる、共有資源を管理するための8原則について、活発に議論した。
- コモンズの悲劇を回避する上で、資源配分を支配する制度・ルールと個人が担う役割の相性について検討した。

成果

- 資源管理の概念（民営化、国有化、集団行動など）と、共通資源の管理に関するエリノア・オストロムの8原則について学びました。
- 共有資源の管理のための8つの設計原則を、自分た

ちが選んだ環境課題に当てはめて議論した。

B. 対面交流

コース・ディスカッション・セッション4

ねらい

- 環境政策がうまくいかない要因や、政策が変化していく過程について理解し、各場面でどのように政策をサポートすれば良いかを考える。
- 政策における計画と管理の方法を探る：世界銀行が資金提供したプロジェクトについて分析する。

活動

- 政策の失敗を引き起こす4大要因と、政策の成功率を高めるためにサポートできる4つのポイントについて、活発に議論した。
- グループに分かれて、世界銀行などの機関で活用されているプロジェクトの企画・実施のための計画・管理方法について話し合った。

成果

- 過度に楽観的な期待、分散した統治下での実施、協調的な政策決定の欠如、制約を受けた政治サイクルなど、政策が失敗する要因について学んだ。
- 政策を成功に導く4大ポイントである、準備、追跡、サポート、評価について学んだ。
- 世界銀行などの機関が活用するプラン・アンド・コントロール方式について議論した。

コース・ディスカッション・セッション5

ねらい

- 環境問題に対する青年主導の取組について議論する。
- デリバロロジーという概念について理解する：考案から実行まで

活動

- 2番目の事前課題として、自国での青年主導の環境問題への取組の中で自分が触発されたものについて発表した。
- デリバリーユニットの構築から、目標や道筋を設定するためのデータ収集、ルーチンの確立まで、改革の取組を管理する方法が紹介された。

成果

- 青年が主導する環境活動について情報交換を行えた。
- デリバロロジーの概念とその3大要素について理解した。

コース・ディスカッション・セッション6

ねらい

- 諸々の問題を変革の契機として捉え、複雑な環境課題に対する適切な解決策の模索を促すために、環境課題を構成・分解し、人々を動かすナラティブを作り上げる過程について理解する。

- 問題を分解して、それを視覚化するべく石川ダイアグラムを描く。

活動

- 提供されたワークシートを使って、自分たちの環境問題に対して、人々を動かすようなチェンジ・ナラティブに構成・分解した。
- 構成と分解の結果を基に石川ダイアグラムを描き、グループ内で共有した。

成果

- 環境課題の構成と分解のために様々な手法を用いることができた。
- 各自選んだ環境課題を可視化するために石川ダイアグラムを描くことができた。

課題別視察②

視察先：SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI)

活動

- 国連大学において、(i) SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) について、(ii) イノベーションと教育プログラム、生物多様性の各種政策や取組についての講義
- 環境問題に対する青年の関わりを強めるためのプログラムの設計

課題別視察②から学んだこと

- 国連大学での様々な取組や、生物多様性と青年に関する種々の国際条約、ネットワーク、活動などについて学んだ。
- 各国における青年の関与を促す取組から学び合い、環境問題に対する青年の関りを促進するためのプログラムを作成した。

コース・ディスカッション・セッション7

ねらい

- 複雑な環境問題に取り組む際に、何をすべきか、どのように行動すべきか、という考えを明らかにすることの難しさについて考える。
- 複雑な環境問題に直面した際の効果的な実践に必要な学習と適応を促す、体系的な手段について学ぶ。

活動

- 自らの石川ダイアグラムに対してチェンジスペース分析(権限、受容、能力)を行う方法について学んだ。
- 自らの環境課題に取り組むにあたって、行動に基づいた様式の土台を確立するために、自分にできるアイデアやそのイテレーション計画を導き出した。

成果

- 仲間のフィードバックに基づいて石川ダイアグラムを修正し、チェンジスペース分析を行えた。
- 自らが選んだ環境課題の解決に向けた最初のアイデ

アを考案し、イテレーション計画の例が紹介された。

(5) サマリー・フォーラム

- a. CDの成果をどのように報告したいか全員の意見を聞きながら議論し、6名(JPY 2名、OPY 4名)が発表者に手を挙げた。
- b. PYの発表した成果は以下の通りである。
 - ・ オンライン交流: 自分の関心ある分野の環境課題について、より深く学ぶことができた。
 - ・ 対面交流: 複雑な問題に対する理解及び解決のため、問題に基づくイテラティブ・アダプテーション・ツールキットを用いた。
 - ・ 課題別視察②: 生物多様性の保全に関する国連大学のプログラムを紹介した。
 - ・ 地方プログラム: SDGs目標14と15に関する知識を深め、宮城県の人々の持つレジリエンスや優しさを知った。
- c. 自分たちの今後のアクション・プランについて発表した。
 - ・ エネルギー: さらに調査していく必要があり、より多くの青年主導の取組に関わっていく。
 - ・ 森林破壊: 森林と生物種の保護に焦点を当てた組織や青年主導の取組をもっと探し、より多くの青年を啓蒙する。
 - ・ プラスチック汚染: プラスチック政策に関する市民の努力と青年の声を高める。
 - ・ 食料廃棄・不安: 持続可能な生産と消費に関する意識を高めるため、青年を啓蒙する。
 - ・ 海洋生物の生息環境の破壊/乱獲: 持続可能な漁業開発のための、地域に即したニーズに応えるべく、政府に対して青年の参加を促すように働きかける。
- c. 国連大学への課題別視察②については、「有意義な講義だった。アフリカや中東での取組にも力を入れられると更に良い。」と述べられた。
- d. 宮城県の地方プログラムでは、地元青年や受入れ側のもてなしに感謝し、訪問先や、そして何より東日本大震災を経て復興に向けた地域社会のレジリエンスには目を奪われた。
- e. CDでは多くを学んだ一方、今後については、自らが選んだ課題について研究を続け、意識を高める方法を見つけ、自国の他の青年を動員して環境問題への行動を起こすと述べられた。
- f. 最後に、自国の文化的な敏感さに留意しながら、この厳しい世の中における自助の考え方について、仲間同士で考察した。事業に対するPYの総括として、日本での対面交流は期間が短く、多くの活動が詰め込まれていたことが挙げられた。お互いをよく知ることができた頃には、もう別れの時になってしまったとはPYの弁である。

(7) ファシリテーター所感

(6) 自己評価

- a. 手を挙げた4名のJPYの進行により、2つのセッションに分けて振り返りが行われた。まず、ディスカッション、国連大学への課題別視察②、宮城県での地方プログラムから学んだことを、CDの仲間たちに振り返ってもらい、次に事業終了後の行動について焦点が当てられた。
- b. コース・ディスカッションからの学びとして、参加前は自分が選んだ課題は自国に特有のものだと思っていたものの多くの仲間が類似の環境問題への取組に関心があることを知ったことが挙げられた。同じPYの経験から学び、様々な対策や教訓について理解する機会がありがたかったと述べられた。CDを通して学んだ理論的な概念や分析ツールが高く評価された。
- a. 私がCDを担当する上で、これ以上ないPYたちが集まってくれた。というのも、第一に、事務局スタッフや地方プログラムの受入れ側、またファシリテーターの私に対してのみならず、仲間のCDメイトに対しても礼儀正しく、第二に、熱心で、ディスカッションや地方プログラム、課題別視察に積極的に参加し、第三に、事前課題や課題図書に多大な努力を払い、第四に、CD内で様々な役割を担ってサマリー・フォーラムの準備など、目の前のやるべきことを効率的にこなし、そして最も重要な点として、第五に、CDの仲間を助け合っていたのである。
- b. PYは2グループに分かれてオンライン交流をしていたところ、JPYが東京での最初の課題別視察①に尽力してくれたおかげで、CDの全員が東京を体験し、友情を育むことができたことは特筆に値する。私は、いかにPYがプロフェッショナルで、明晰で、礼儀正しく、友好的で、手助けを惜しまないかをCDを通して目の当たりにし、喜びと幸せでいっぱいになった。このような得難い機会ならではの、バス移動中や食事中、自由時間などで響いた笑い声は、結ばれた友情の証であった。
- c. CD全体と事業全体の準備に向け、皆さんが費やした時間と努力に大変感謝しており、この素晴らしい経験について内閣府に対して心から御礼申し上げる次第だ。我々が愛情を込めて「SWY」と呼ぶこの素晴らしい家族の一員になれる機会を、より多くの青年が得られることを祈念している。

8 CD-8平和と安全・安心社会の実現

ファシリテーター：Lillian Solheim

PY：16名（JPY 6名、OPY 10名）

(1) コース・タイトル

「青年と平和」

(2) ディスカッションの目的とねらい

CD-8の目的は以下の通りである。

- ・ 平和、紛争、暴力に対する理解を深める。
- ・ 自国や他国の文化がこれらの概念とどのように関わっているか理解を深める。
- ・ 平和に貢献するSDGs、機関、個人について知る。
- ・ 目標16の達成を青年がどのように支えられるか議論する。
- ・ 平和の構築者としての自らの役割を考える。

(3) 事前課題

SDGs、特に目標16（平和、司法、盤石な制度）について知る必要から、自国の文化や歴史から平和に関連するものを持ち寄り、地場での平和構築者について調べることが求められた。

(4) 活動内容

A. オンライン交流

コース・ディスカッション・セッション1

ねらい

- a. コースについて紹介し、お互いをよく知る。

活動

- a. PY、コース、進め方の紹介
- b. 恐れていることや期待していること、グループ内で良好なディスカッション環境をどう作り上げるかについて話し合う。

成果

- a. お互いのことを知るために、自分の故郷の写真や思い入れのある品々を紹介しあった。
- b. 良い学びの環境を作るにはどうしたら良いか全員で合意した。

コース・ディスカッション・セッション2

ねらい

- a. 平和と暴力の概念を探求する。

活動

- a. 平和博物館や記念館の写真、感動的な人物、詩や歌など、平和にまつわるアイテムの発表
- b. 紙に「平和」という言葉を書くという活動を通して、平和という概念を探求する。そして、その紙を破いて、

また直してみる。

- c. 様々な種類の暴力（直接的、文化的、構造的）についての理論的な学習
- d. SDGs目標16に関するターゲットや指標など、SDGsに関するプレゼンテーション

成果

- a. 平和に関連するものを共有することで、他の人々や文化が平和をどのように受け止めているのかを知ることができた。
- b. 紙を使った活動を通して、平和は簡単に壊れてしまうこと、再構築にはより時間がかかること、そして決して以前と同じようにはならないことを学んだ。
- c. ネガティブな平和とポジティブな平和の違い、暴力に間接的なものと直接的なものがあることを理解した。
- d. SDGsの背景情報を知り、SDGs目標16の見据える先、ターゲット、指標、進捗について学び、有用なリソースを知った。

コース・ディスカッション・セッション3

ねらい

- a. 対立の概念を探求する

活動

- a. 対立に関連するあらゆる言葉を連想し、ポジティブ、ニュートラル、ネガティブに分類
- b. 自国に存在する紛争の種類についてのディスカッション
- c. 対立に関する理論的な学習

成果

- a. 様々な種類の紛争（直接・間接）、様々な種類の暴力（直接・文化・構造）、様々なレベルの紛争について学ぶ。紛争と暴力の違いや、紛争は私たちの生活の中で自然に起こるものであることを学んだ。
- b. 世界各地の紛争について知る。

B. 対面交流

コース・ディスカッション・セッション4

ねらい

- a. 平和と対立（前回の続き）

活動

- a. オンライン交流で扱った主要な概念の復習
- b. 2つのグループに分かれ、風船を使った双方向型の活動。一方のグループにはつまようじが、もう一方のグループには風船が配られ、風船を守る指示がなされる。つまようじを持ったグループは、相手チームの

風船を壊そうとする。

- c. 個人単位でどのように紛争に対応するかについて、一連の質問を用いてペアを組んでのディスカッション

成果

- a. 風船を用いた活動の後に総括を行い、暴力について考察した。しばしば、勝者と敗者がいるゼロサム・ゲームでなければならないと思い込み、いかにたやすく暴力に訴えてしまうかについて議論した。
- b. 他者や自分自身がどのように葛藤と関わり、対応していくのか、より深く理解する。

コース・ディスカッション・セッション5

ねらい

- a. 具体的な紛争分析ツール（コンフリクトツリー、ステークホルダーマッピング、インフルエンスマッピング）を学ぶ。

活動

- a. 紛争分析の重要性と根拠に関する理論的な学習
- b. 対立分析に関するグループ演習とプレゼンテーション

成果

- a. 様々な紛争分析ツールを試すことができた。
- b. 男女差別、人種差別、汚職などの紛争について分析・学習した。

コース・ディスカッション・セッション6

ねらい

- a. 紛争の、様々な段階について学ぶ。
- b. 平和構築について学ぶ。
- c. 平和やSDGs目標16に向けた制度・組織・人に関する知識を習得する。

活動

- a. 国別発表における暴力の様々な現れ方についての議論に始まり、どのような暴力が提示されたかを分析した。
- b. 平和構築者のスピード・デートという活動を行なった。自国における人々を触発するような平和構築者や組織を描いたポスターを用意し、他のPYに対してリラックスした形で発表した。
- c. 紛争の様々な段階に関する理論的な学習

成果

- a. 紛争の様々な段階とその解決に向けた取組（紛争管理・解決・変革、平和維持・平和創造・平和構築）を学んだ。
- b. 世界各地の平和構築者と組織について学んだ。ディスカッションでは、多くの平和構築者の自己犠牲と、善行を続けるための自己防衛の必要性について考えることができた。

課題別視察②

視察先：ピープルポート株式会社

活動

- a. 横浜への移動中、日本、オーストラリア、ポーランドの難民事情の紹介
- b. 難民の雇用を創出する電子機器のリユース・リサイクル事業「Zero PC」の創業者についての紹介
- c. 難民との交流、日本における難民の状況についての学習

課題別視察②から学んだこと

- a. 今回の視察では、ソーシャルビジネスが平和、社会的結束、環境にどのように貢献するかについて新たな視点が得られた。
- b. 日本や海外の難民事情について知った。

コース・ディスカッション・セッション7

ねらい

- a. 紛争と平和構築において青年が果たし得る様々な役割と、その課題と機会について学ぶ。

活動

- a. 青年について、青年の認識について、青年のSDGs目標16への貢献の仕方についての講義
- b. 若き平和構築者のスキルや資質、それに対して支援となるもの、妨げになるものを示すポスターの作成

成果

- a. 青年と一口に言っても均質な人口グループではなく、異なる役割が担われていることを学んだ。
- b. グループ・ディスカッションを通じて、若き平和構築者が直面する困難と機会について学んだ。

(5) サマリー・フォーラム

CDで得た主な成果を、行った具体的な活動や、視察先で出会った印象的な人物や組織なども交えて発表した。

(6) 自己評価

- ・ いっぺんに達成できる、全員にとっての平和は一つとして存在しないことを学んだ。平和のための努力は継続的であり、青年をこの営みに組み込むことが重要である。多くの障害があるが、それを認識することで、それに打ち勝つことに近づける。
- ・ 平和構築について、そしてそれが様々なSDGsとどのように関連しているのかを学んだ。平和に向けて重要な役割を果たすことができると学び、そうしたいと思うようになった。
- ・ 平和な世界を築くことは簡単ではないが、今回のようにみんなで考えれば実現できると思う。
- ・ 個人がそれぞれの方法で平和構築に貢献できることを学んだ。色々な組織、学生、家族を目にし、様々な国の平和構築者について学んだことで、誰もが多様

な方法で平和に貢献できると理解を深めることができた。

(7) ファシリテーター所感

様々な双方向型の活動、プレゼンテーション、グループ・ディスカッション、課題別視察を通じて、青年、平和、紛争について探求した。紛争にはプラスとマイナスの側面があるが、うまく管理したり、変革したりすることで、より良い社会に貢献できることをPYは学んだ。平和構築における青年の貢献について学び、平和が環境など他の問題とどのように関連しているのかについても考察した。特に、若くしてソーシャルビジネスや組織を立ち上げた人たちから直接話を聞くことができたのは、刺激的でモチベーションの上がる課題別視察となった。また、PYは、地元のボランティアや青年、難民との出会いにも感謝している。多くのPYが、アンケートで「平和について新たな展望が持てた」と述べている。CDと課題別視察で視野

が広がり、今後の変化や違いを生み出すためのモチベーションが高まったようである。また、このコースを通じて、自分が何者なのか、何を優先すべきなのか、そして新しい知識をどのように自国で用いることができるのかを考え直すことができたという者もいた。多くのPYが、自らの知識を共有し、平和に関するワークショップやセミナーのファシリテーターを務め、ソーシャルビジネスの可能性を検討し、地域社会をより包摂的なものにするためのボランティア活動を行うなど、事後活動の計画を立てている。グループでアイデアを共有し、学び、成長するための安全で快適な空間を作り出したことをPYは高く評価した。以上から、CDの目的・目標は達成されたとと言えるだろう。個人的には、グループのPY一人ひとりと共に過ごすことで刺激を受けることができた。PYはきっと、それぞれの地域で有意義な貢献をしてくれると確信している。